

中西美沙子 [教育コーディネーター]

大丈夫よ！お母さん！

子育てをたのしんで ~なぜ？…叱り方まで教わる時代~



小さな子どもを連れてお母さん方を見ると、とても輝いていて素敵だな、と何時も思います。春先。芽吹き始めた木々の下を歩きながら、幼子が指さすものに「きいろのチョウチョよ」と応えるのを聴くのも、また楽しいものです。「チーウチョ。チョーチョ」などと、まだ言葉にならない声で飽かずに言う子どもの口元にも、命の芽吹きを感じます。

近頃、「なぜ？」と思うことがあります。それは「叱り方」についての事々です。叱り方の本が増え、東京では「叱り方教室」なるものが大繁盛とか。ふしぎな気がします。「叱ること」を教えるって何なのだろうと、つい疑問に思ってしまうのです。

「叱る」は、大人への道を整える大事なことです。でも、本が売れる背景には、「叱り方」を知らない親たちが増えていることが想像できます。実際、私が講演をした後などよく訊かれる質問にも、それに類することが多い。「このような場合、叱ったほうがよいか」「何と叱ればよいのか」など。

現代はノウハウ時代。しかし子育ての悩みは方法論では解決できません。赤ちゃんが泣く。お腹が空いた合図か、熱があるのか、オムツが濡れているのか。それぞれの場面で同じように赤ちゃんは泣きますが、そんな時ノウハウで考えるお母さん方はま

ず居ないでしょう。肌に触れたり時間を考えたりしながら、赤ちゃんの欲求を理解します。「経験」の積み重ねを厭（いと）わなければ、自然に赤ちゃんの気持ちは理解できます。



中西美沙子プロフィール

教育コーディネーター。執筆・講演活動の傍ら、文章教室「スコレ」・画廊「キューブ・ブルー」（浜松市中区元城町）を主宰。文章教室「スコレ」では、小学生から大人まで幅広い層を対象に、ただ書き方を教えるのではなく、「この時代をどのように生きるか」を見つめさせるような試みをしています。お問い合わせは、TEL.053-456-3770

ホームページは



著書の「ピアノシモでね」（東京書籍）は、中日新聞に連載した人気コラム「つかまえて！こころ」をまとめたもの。同著には、親子の問題もいろいろ描かれています。（税込1,500円）

＝お求めは浜松市内の谷島屋で＝

叱ることも同じでしょう。叱り方の本に頼る人は、「自然に叱ること」に不安を持っているのかも知れません。今の時代は「これで良い」と納得することが少ない時代。あれもこれもと

必要以上に子育ての情報が溢れています。そこに不安が生まれるのです。こんな時こそ、子どもにすべきことの最低限がクリアできれば「これで良い」と、考えを変えてみるのも良いでしょう。命の安全。清潔な体。適切な栄養。これらと「慈しむ心」があれば、子どもは健全に育つでしょう。今挙げたことは、さほど難しいことではありません。

「叱ること」は成長と共に変化します。乳幼児は叱ることよりも、危険なことを制止する程度ですね。自我意識が芽生えたら、叱ることの始まりです。でもこの時期も言葉ではあまり善悪を理解しません。「だめよ」「やめなさい」などの言葉を、その場で飽きずに言います。子どもは言葉の意味より、その調子で、行動をやめるようになります。

叱られた経験は誰にでもあります。その経験を思い出してみよう。際立って凄い方法で子育ては行われた訳ではありません。平凡な「子育ての文化」が自然につながっていたのです。間違った叱り方をすると、子どもに悪い影響が出るなど思い込まないことです。子どもの成長と共に、「叱り方」を変えることぐらいで良いでしょう。

手をつないだ幼子が、「かあたん。おはな」と指さす春は短いものです。こんな時を共有できることを喜びに感じたら、「叱ること」も自然に生まれます。